

# えんちょう通信

No.9 1

令和 5年2月17日

福島市立清水幼稚園

発行者 佐藤 一男

## 「友だちって、いいな・・・。」

2月10日の発表会には、たくさんの皆様にお越しいただき、ありがとうございました。子どもたちが笑顔で発表する姿を見ていただくことができ、本当によかったと思っています。

発表会のあった次の週の月曜日に、主任の先生が、ある子のお母さんに「発表会、頑張りましたね」と声をかけたそうです。するとそのお母さんがこう言ったそうです。

「始まる前はすごく緊張してたのに、家に帰ってきたら『もう一回やりたい』と言ってました。」

それを聞いて、よかったなと心から嬉しくなりました。

保護者のみなさまからその発表会の感想をいただきました。その一部を紹介します。



- 1年前は、一人っ子なので、集団生活に少し不安を感じていましたが、当日の発表やそれに向けた練習の様子を聞くと、いろいろなお友達の名前が出てきて、良い仲間にも恵まれたなと安心しています。(年少組の子のお父さん)
- 人前で話すことは、慣れていないし、ドキドキして緊張したと思います。でも、(友達と)お互いに声を掛け合いながらできていて、素晴らしいと思いました。(年少組の子のお母さん)
- 一人ではやらないことも、友達に刺激されチャレンジする意欲が湧くのだと改めて感じました。(年少組の子のお母さん)
- ときどき立ち位置や自分の台詞を忘れてしまった友達に、コソッと教えてあげたり、先生の片付けを手伝ったりする姿にも、心を打たれました。「がんばれ!!」とか「大丈夫だよ!!」などと声をかけられることが素晴らしいなと思いました。日ごろの練習で、みんなで声掛けをしながら頑張っていたのかなと思いました。(年長組の子のお母さん)
- チャレンジでは、「がんばれー!」「できるよー!」と友だち同士で応援していて、優しさを感じました。楽しく、あたたかい発表会でした。(年長組の子のお母さん)

発表会の次の週の2月14日には、未就園児のサークル「こぐまの会」の小さな子どもたちとその保護者の皆さんの前で発表しました。その次の日の誕生会でも、お互いに発表し合いました。



誰だって人前で認められ、拍手をもらうのはうれしいものです。それが仲良しの友だちと一緒になら、子どもたちにとって、こんな嬉しいことはありません。

子どもたちは、友だちとのかかわりの中で、その集団の中で成長していきます。誰か一人だけが成長していくのではなく、一人一人みんなが、それぞれに成長していきます。

そういう経験を通して、「友だちって、いいな・・・。」という思いを、より一層深めていくのではないのでしょうか。